



切れ目ない子ども・子育て支援

筑後川関係地域の 子ども・子育て支援を考える 地域円卓会議

開催報告書

2025.11.16

主催

公益財団法人ちくご川コミュニティ財団

チームアンバイジャー(休眠預金等活用事業2023年度通常枠実行団体)

開催経緯

休眠預金等活用事業（2023年度通常枠）において、ちくご川コミュニティ財団と実行団体による「チーム アンバイジャー」は、事業「困難を抱える家庭を取り残さない仕組みづくり」に取り組んできました。子ども支援や子育て支援の現場では、困りごとが複合化する一方で、制度や支援資源が点在し、必要な情報が届きにくい・つながりにくい状況が見えています。こうした現状をチーム内だけで抱え込まず、地域の課題として共有し、次の協働につなげる対話の場をつくりたいという思いから、地域円卓会議の開催を企画しました。

第1回となる本会は、「地域でつくる切れ目ない子ども・子育て支援」をテーマに、筑後川関係地域における子ども支援・子育て支援の現在地と課題を、市民とともに共有し、考える場として実施しました。着席者（センターメンバー）は、子どもの居場所支援団体、子育て支援団体、行政、学識者など、日頃から支援や制度に関わる関係者で構成し、一般参加は子ども支援や子育て支援に関心のある方を広く募りました。



地域円卓会議とは

「誰かの困りごとを地域の課題として情報共有し対話や協働を目指す場」です。特定のテーマについて多様な立場の人が集まり、情報提供をし合うのが特徴で、賛成派または反対派に分かれた議論はしません。

中央の円卓に論点提供者1名と複数人のセンターメンバー（両者をあわせて「着席者」と呼ぶ）、ファシリテーターが着座します。それを囲むように一般参加者が座ります。冒頭、論点提供者がみんなで考えたい困りごと（論点）を提示。次に、センターメンバーがその論点に関する情報や意見を述べます。その後、着席者と一般参加者が複数の小グループをつくり、意見を交換します。そしてもう一度、着席者による対話が行われます。

それぞれが話した内容は、記録者が模造紙にまとめます。文だけでなく絵も多用した記録方法である「グラフィックレコーディング」を採用し、最後に記録内容（板書記録）を全員で振り返ります。

※所属、肩書は当時。敬称略。資料やデータは開催日現在のもの。

開催概要

テーマ：地域でつくる切れ目ない子ども・子育て支援

日時：2025年11月16日(日) 14:00～17:00

場所：久留米リサーチパーク(福岡県久留米市百年公園1-1) 研修室A

主催：公益財団法人ちくご川コミュニティ財団

参加者数：45人(論点提供者、センターメンバー含む)

ファシリテーター：庄田 清人 ちくご川コミュニティ財団副理事長

グラフィックレコーダー：柳田 あかね ちくご川コミュニティ財団理事・企画広報部長

論点提供者

中村 路子 氏

一般社団法人umau.代表理事

子ども・子育て支援での個別のライフステージの関わりには 年齢・課題に応じた視点だけじゃ足りないのではないかな？

筑後川関係地域の子ども・子育て支援の現場では、ライフステージごとの課題に加え、虐待・貧困・ヤングケアラー・障がい等の困りごとが重なり、単一の制度・単一分野では支えきれないケースが増えている。

論点提供者は、血縁のない「大家族づくり」を掲げる居場所実践（じじっか等）を通じ、支援を「子ども／親」に分断せず、家族（家庭）を単位に捉える視点の重要性を提示した。

発表では、家庭背景の複雑さ、トラブルにつながりやすい行動、保護者の不安定さ、孤立などが絡み合い、生活が揺らぐ実態が共有された。

その上で、年齢や課題で区切る支援だけでは足りない現状を踏まえ、地域としての支援環境をどう整えるかを議論することが、本円卓会議の論点として提起された。

センターメンバー



豊田 晴子 氏

一般社団法人
産前産後サポーター協会
代表理事



池田 彩 氏

一般社団法人
お母さん大学福岡支局
代表理事



藤野 薫 氏

NPO法人
久留米市手をつなぐ育成会
代表理事



重永 侑紀 氏

NPO法人
にじいろCAP
代表理事



伊藤 拓也 氏

久留米市 子ども未来部
こども子育てサポートセンター
主任主事



平野 隆之 氏

日本福祉大学 教授

【板書記録】

切れ目ない子ども・子育て支援
**筑後川関係地域の
 子ども・子育て支援を考える
 地域円卓会議**
 11月16日(日)14:00-17:00 久留米リサーチパーク

参加者:

- 庄田清人
- 平野隆之
- 伊藤招也
- 伊藤南紀
- 中村路子
- 豊田晴子
- 池田彩
- 藤野薫

地域円卓会議とは

地域のこまりごとを
 社会課題として
 共有・共感する場

本日のテーマ

**地域でつくる切れ目ない
 子ども・子育て支援**

論点提供者 中村さん

「じじっか」運営(久留米市) 2020年~

子ども・子育て支援の


年齢

課題

に応じた視点だけでいいの?

「整備関係」の中2女子
 ・母子家庭 ・不登校

父子家庭の小学生男子
 ・父は脳梗塞 学校暴行



✓地域の4から必要
 → 家族ならどうする?
 親子の
 はなしをきけばきくほど
 「何か、あとおしが必要...

センター
 ナンバー① **豊田さん**

「じじっか」運営(小郡市) H10~

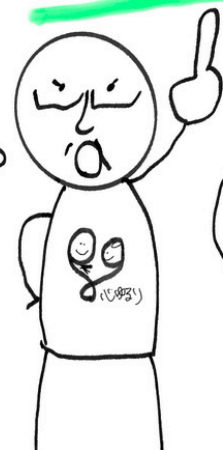
年齢 課題 関係なく産後つながること

いっしょに「子育てのスタートライン」に立てる

家庭全体のことをみて
 11/11/16もしかいすぽろUPはむう

地域の中で いばし、学びづくり

あたたかいものたぐえる環境を



早期発見の最前線→
 産前産後ケア現場

センター② 池田さん

お母さん大学 福田支局 (沼田市)



〈子どもも育つお母さん〉

県外から転入

「他のお母さんとは違って子どもが育たない?」



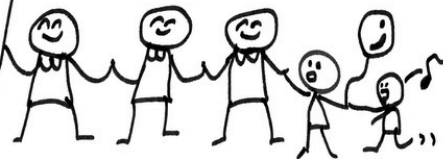
家庭を孤立させない

継続的に共に喜びを覚め励まされる

関係性

ママ友ではなく同志

お母さんたちも
エンパワーメント



センター③ 藤野さん

沼田市50年!「手をつなぐ育成会」
知的障害者の観念の会

アンケート調査

「子ども一時あきらめない」39%

「急な宿泊時 子どものあきらめない」54%



地域共生社会って

いろいろな人がいてあたりまえの社会

あかひを排除する社会は

だれにとっても 息苦しい社会になる

障害があることで
孤立すること
不幸なこと...

センター④ 重永さん

「あての子どもが生まれてきてよかった」
にじいろ CAP

子どもの権利侵害を防止

- ✓ 学校での権利侵害
- ✓ 大人も「権利」というコトがない
- ✓ 「にじいろ」

差別構造がある限り

子どもへの暴力なくなならないこと前提

社会 個人 アプローチを



最善の利益

コスパタイプ } 重視した

「家族」という力学 → 人かちかくなるように課題も...

家族

ごちも

権利保障

セ・タ・ナ・ビ⑤ 伊藤さん
久留米市役所「こどもサポ」 社会福祉士

年齢 課題 ベースは行政とに次の支援
つなげやすいこと

こども子育てサポートセンター
H29年～ 0～18歳のこども
サポート（お母さん）

アウトリーチ（家庭訪問、
病院同行）

〈高校生の例〉
- 家にいない、家カギがない
→ どこにつなげる？
じいちゃんにつなげた

「スイス → ゼロ〇へ」
「ゼロ〇 → プラスへ」

「あなたはどうかしたい？
子ども本人へよりそう本質
行政つないだらおかしくない
重層的に、久留米市にある
学校 行政 病院

セ・タ・ナ・ビ⑥ 平野さん
日本福祉大 教授
2023年～ 久留米市 つかかり。

チームアドバイザーは
市民と民の協働による

新しい久留米市になる

〈田卓の期待〉
① 委託事業での自由裁量性を
高める 企画提案
② 利用者の利益保護のための
チェック機能
③ 説明責任を果たす

休暇預金等胡事業による
コソティグインパートを
めざすチーム

サイゼンシヨ

孤立も干渉もイヤ...
ちょうどいいアンパイは...

福岡市の制度との比較。
フランスとのちがい。
日本は発想をかえなければ...

元スールカウンセラー。
里親してる。
制度にうまくない子ども
が目につく...

「福祉」>「教育」に？ 切りはなれる。
自分のできることはないか...

子と親のホゴ
シエリター年齢によってつたえない
法律の枠組みはない人も

個々の課題

- どう世の中に反映?
- 時代が変わるから制度に合わない
- 「小さな」をどう構造化?

中村さん

「あぶないっしょ」と思う毎日



ひとくくりにはできない

- 家庭ごとにお祭りごとちかう
- こまりごとはきかず } 場外、ゆくり休むな } 必要
- 団体としての運営資金

豊田さん

風とおしよい社会のために
民権どうし手をつなぐ

三林浴のどくみで見た可能性

- 地域外でもとらわれるフェーズになる
- 自分の子に注ぐパワーを地域の子に注ぐ
- 「苦しみ」を「たのしみ」に

池田さん



小さな手伝いがある

- 小学生~おとまりまで
アトタのまじいばいっしょ

藤野さん

**“ちゃんとした”家族、人間に
したがる社会 もと寛容に**

- 最初からトラギル回を良しとする
- 転校した子とCAPフォーラムの話
- もっとみんながママに

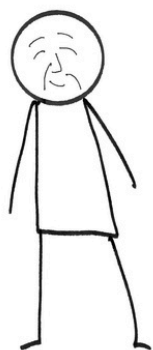
重永さん



**構造的な政策への反映と
個人としての想い**

伊藤さん

官と民の力のわり
市町村にはできないところ



平野さん

社会の中
制度
市場
家族
でもつ外ない
空間
つくりこ

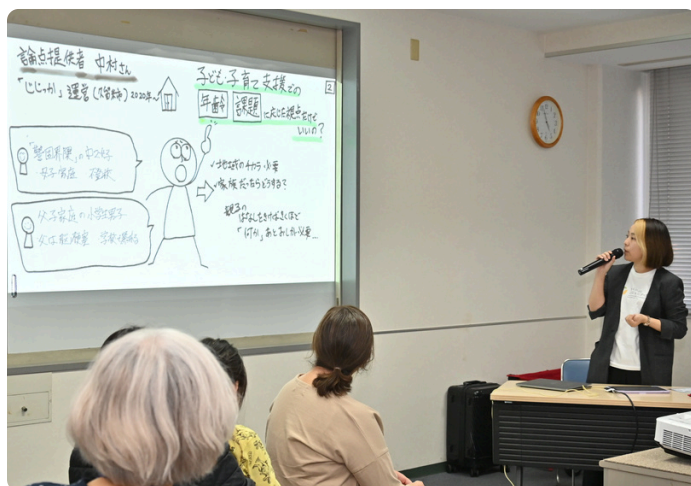


- 集約されるべきでは
- 手をつなごみ新しい世界ある
(最後は親子で...)

行政
・ 業務以外にでいく
・ 民民共働を支援、深化支援

⇒ ちくご川CF x アンバサダー
プラットフォームで実現を

【会場の様子】



切れ目ない子育て支援を

きょう久留米市で「円卓会議」

参加募集

筑後川流域などで市民活

ークで開く。

動を支援する「ちくご川コミュニティ財団」（久留米市）は16日午後2時から、「筑後川関係地域の子ども・子育て支援を考える地域円卓会議」を久留米市百年公園の久留米リサーチ・パ

地域円卓会議は、多様な関係者が集まり、特定のテーマについてそれぞれの知見などを出し合って考えを深めるのが目的。今回は「地域でつくる切れ目ない子ども・子育て支援」をテーマ

に、ひとり親世帯の支援拠点「じじっか」を運営する「uma.u.（ウマウ）」（同市）の中村路子代表が論点を提供する。

子育て支援団体の代表や行政職員、大学教授などが意見を述べた後、一般参加者も交えて複数のグループに分かれて意見交換する。

参加無料、定員50人。当

日参加も可能。同財団〓〇
80(4690)1198。

（岡部由佳里）



議論の継続と深化

アンバイジャーを中心に、子ども・子育て支援をテーマ別に議論する場を継続的に運営する。参加者向けに開設したLINEオープンチャットをコミュニティの基盤として活用し、より多様な参加者とともに論点を共有・整理しながら議論を深める。



官民連携の場

今回の円卓会議で挙がった論点について、官民での情報共有を継続的にを行い、連携の具体案の検討と実行につながるきっかけづくりを進める。今後取り上げる別テーマについても官民で情報交換の機会を設け、地域の子ども・子育て支援に関する論点の整理と協働の実装を後押しする。



参加者の満足度を上げる工夫

サブセッションをしっかりと行い、一般参加者からも話や思いを共有することで、その後の動きを誘発させる。
サブセッションから出た情報共有の時間を確保する。

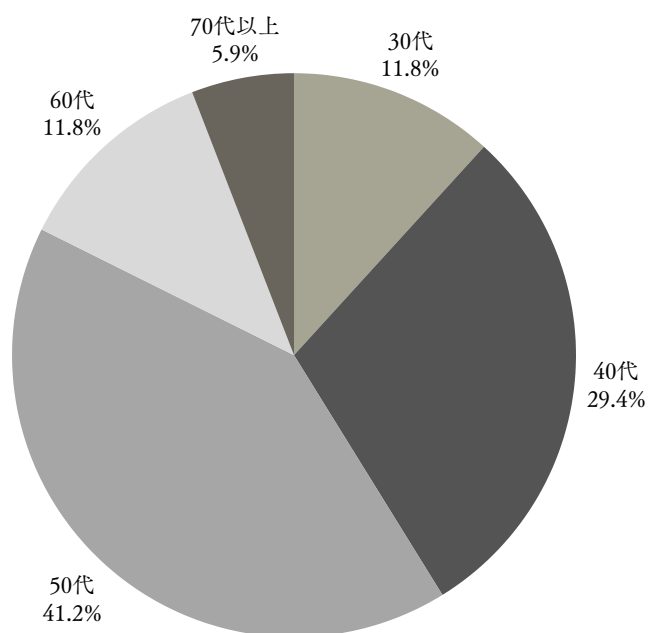


▲論点提供者、センターメンバー、ファシリテーター

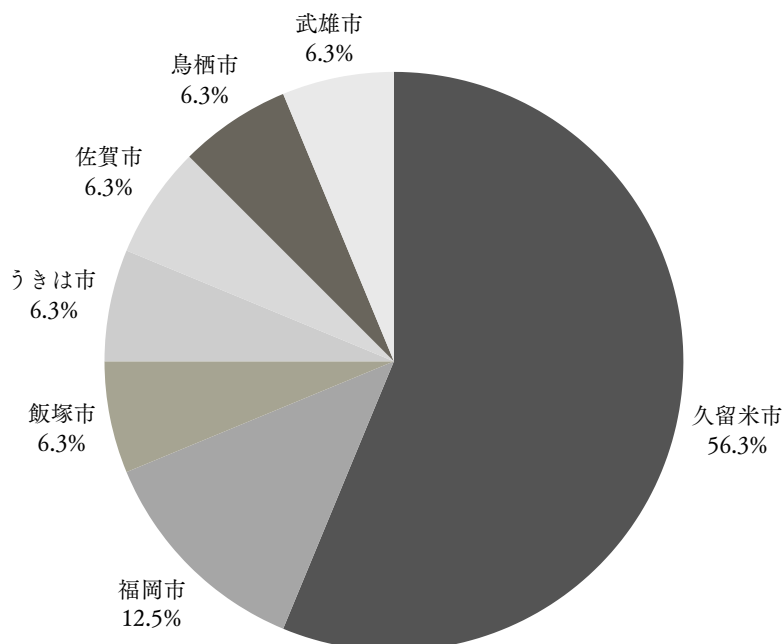
●対象：一般参加者37名。うちアンケート回答数17人、回答率46%。

●回答方法：アンケートフォームでのオンライン回答

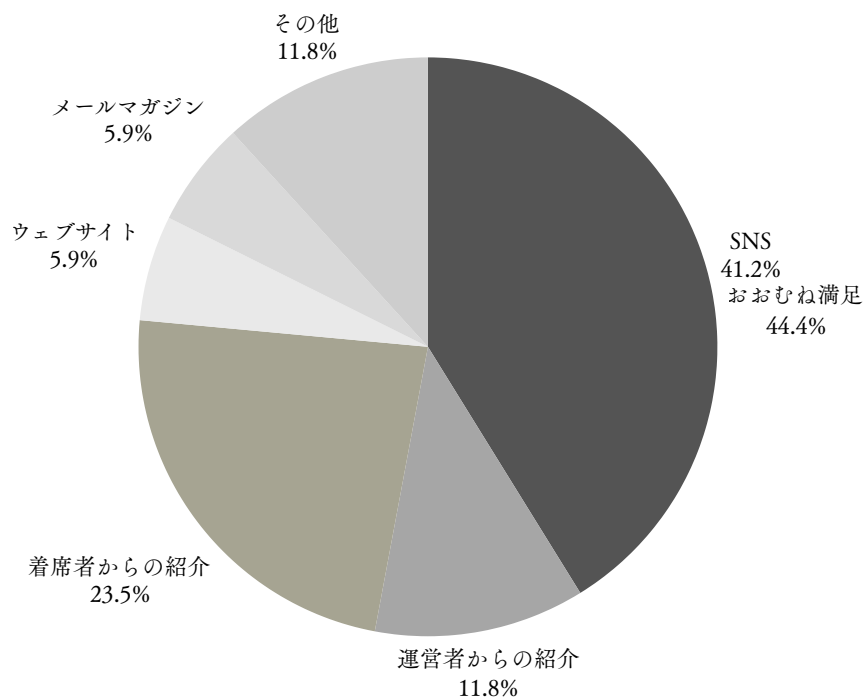
●年代



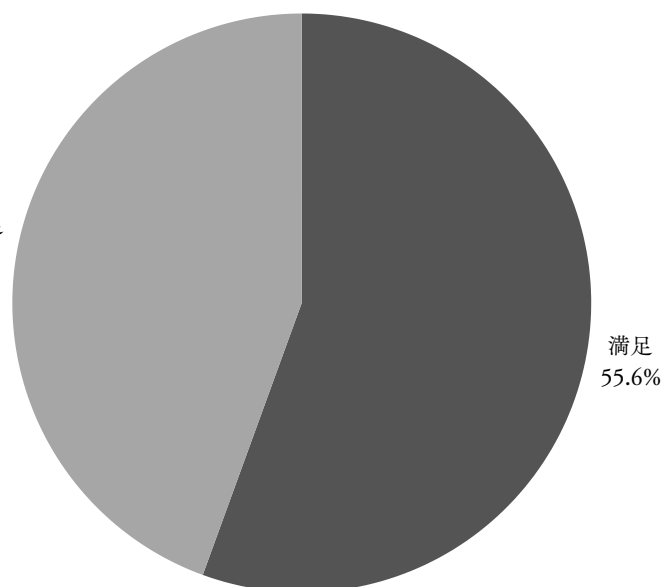
●どちらからいらっしゃいましたか



●本会の認知経路



●満足度



●満足度の理由(自由記述)

- ・こういった活動は常に現在地に居る必要があるなと実感しました
- ・久留米で起きている取組を実感できたこと、また、自分の日頃抱えている課題とリンクしたこと
- ・実現可能な課題であることがたくさんあるということが分かった
- ・課題が見えてきた。
- ・まだまだ支援者として動き始めたばかりのため、視点や考え方など学ぶことばかりでした。
- ・久留米市を中心とした活動の様子を知り、これからの自分の活動に生かせると思えた。
- ・自団体の活動を客観化して考える事が出来ました。活動を発展させる刺激をいただけた気持ちです
- ・今日の会議には市の各部署の方々も来られており、アンバイジャーの各団体の活動や話を聞いてきた内容などを発表することによって、論点に対する答えではないけど、それぞれが聞いてきた内容を大事な所に聴いてもらえたので、「声を届ける」が前進したのではないかと、思いました。
- ・初めて参加させていただきました。各団体が混ざり合って参加者も含めて同じ方向（目的）に向かっていく感覚が得られた会でした。
- ・課題が見えた
- ・地域社会への発信として成功したと思います。
- ・平野先生の解説がわかりやすく、腑に落ちたところが多かったです。
- ・てんこ盛りのお話を、惜しげもなくたくさん聴かせていただけたので、時間がとても短く感じました。もっとお話聴いたり、話をする時間も長くなるといいなあと思いました。
- ・知り合いの再会。初めての方との出会い。新しい気づき。
- ・行政、有識者、そして他の方々の様々な事を聞かせていただけたので
- ・円卓会議初参加対等なイメージがわかりやすかった。テーマが大きくて、民間団体が知り合い、尊重しあっていることを知り、さらに、時代変化から、新たな事業を出し合うことの議論も期待します。福祉市の里親ショートステイを久留米市でもネット上ではありましたが、何処まで利用できてる現状を市議に聞こうと思いました!
- ・知らない活動の内容を聞けた。聞いていただけたが、みんなで課題を共有している感じがよかった。

【本書に関するお問い合わせ先】

公益財団法人ちくご川コミュニティ財団

福岡県久留米市梅満町563



0942-34-5600



info@c-comfund.com

報告書発行日 2026年1月6日

発行者

公益財団法人ちくご川コミュニティ財団

(休眠預金等活用事業2023年度通常枠資金分配団体)

チームアンバイジャー

(休眠預金等活用事業2023年度通常枠実行団体)